



高島藩主諏訪家墓所の特徴や保存活用方法などを学んだ講演会

諏訪市教育委員会は20日、同市湯の協の国史跡・高島藩をとり上げた文化財講演会

諏訪家墓所 魅力や特徴は 住民ら整備の重要性理解

諏訪市教委が文化財講演会

「推し活しよ

う！徳川家を支えた諏訪家と墓所」を市博物館で開いた。同墓所の整備基本計画策定委員を務める石造文化財調査研究所代表の松原典明さんが講演。地域住民ら40人が聴講し、墓所の魅

力や特徴、整備の重要性について理解を深めた。

諏訪家墓所には、2代忠恒から8代忠恕までの歴代藩主の墓標や家臣らが寄進した石灯籠が並ぶ。市教委では墓所の保存と活用に向けた整備基本計画の策定を進めており、史跡指定地内の樹木の伐採や復元、修復作業を今後10年間で実施していく。

松原さんは諏訪家墓所に並ぶ墓標（墓石）を示して「形が特徴的。船の底のような形のため『特殊舟形』と呼ばれている」と説明。全国にある墓所の整備事例も紹介した。

整備計画の内容については、解体された2代墓の木造御霊屋の復元がメインになると解説。観光や教材として活用するために「墓所の本質的価値を示す墓標や、発掘調査で発見された参道、石垣、灯籠などの復元を急務的に行う」とし、「市民の理解と協力が必要。文化財として未来につなげていくためにも、市民の方には頻繁に訪れて見守っていただきたい」などと呼び掛けた。

(松本佳林)